

重点取組分野	横浜市立今宿小学校 令和元年度 学校評価報告書		総括
	具体的取組	自己評価結果	
生きてはたらく(知)	①主体的に学ぶ姿勢を育て学力向上を目指して少人数指導や授業研究会を実施する。 ②朝学習・朝読書を充実させ、主体的に学び、学びをいかす姿勢を育てる。 ③家庭との連携による学習習慣の定着を図る。	「主体的に学ぶ」よう指導にあたり、児童評価では目標値をすべて上回った。少人数指導や授業研究もほぼ計画通り実施することができた。30分以上読書する児童が過去3年間で最も多かったが、目標値には達していない。家庭学習についても目標基準時間に達している児童が47%であり、家庭と協力して継続的な取組が必要である。	B
豊かな心(徳)	①「道徳の時間」のカリキュラムの改善と社会的スキルプログラムの実践に取り組む。 ②ふれあい活動、あいさつ運動を継続し、いろいろな人とかわる機会を設定する。 ③児童・教職員の人権感覚を磨き、年間を通じて人権について考えたり、実践したりする。	「道徳の時間」改善と「社会的スキルプログラム」の実践において目標値に達しなかった。「あいさつ」については児童、保護者が十分しているとは思っていない結果となった。人権教育の重要性を伝えてきた成果が少し見られた。「人の気持ちを考えて行動し、相手を大切に」児童を継続して育てていく必要がある。	B
健やかな体(体)	①体力の状況を把握し、自ら運動習慣の改善に取り組む態度を育てる。 ②健康状態やけがの状況を把握し、自ら健康増進や身の安全を図ろうとする態度を育てる。 ③食に関する体験活動を通して3回の食事・食のバランス等を見直し改善しようとする意欲を養う。	体力テストや体育授業、学校保健委員会などに取り組んだが、「自ら運動習慣の改善」に取り組んだり、「自ら健康増進や身の安全を図ろうとする」までには至っていない結果となった。朝食の非喫食率が4%と前年度を2%も上回ってしまった。また、スマホなどを30分以上見ている児童が16%増えてしまった。家庭と連携して生活の改善に取り組む必要がある。	B
キャリア教育(公)	①様々な体験活動・特別活動を通して自らできることを考え行動する力を育てる。 ②地域と連携した学習を通して、地域貢献・社会参画する力を育てる。 ③いろいろな人とのかわりや経験を通して、夢をもち人の役に立とうとする意欲を養う。	昨年度より良くなっているが「キャリア教育」として系統的に取り組めていない現状がある。一方で「一生懸命取り組んでいることがある」「物事を最後までやり遂げてうれしかったことがある」と9割以上の児童が答えており、本校で取り組んでいる様々な活動が児童の成長につながっていることも分かった。地域を見つめ、学んでいきたいと思う。	B
国際教育(開)	①日本や外国の文化に触れ国際協力や国際社会について学び多様性を尊重する心を育てる。 ②外国語教育を充実させる。	目標値に近い結果であったが上回らなかった。世界に目を向け、多様性を尊重する児童を今後とも育てていきたいと思う。英語活動・英語科の改善にも取り組んでいきたい。	C
児童理解・指導	①「今宿スタンダード」をもとに、朝会等も活用して統一した指導をし、問題行動の防止に努める。 ②診断やYPアセスメント等を活用し、児童の実態に応じた指導を行う。 ③機関や家庭と連携を図り、児童を中心に据えた指導や特別支援教育を行う。	職員の児童指導委員会、特別支援教育委員会が中心となって様々な取組を実施した。それによって、児童理解が深まり指導に活かされていると感じている。今後とも家庭・関係機関と連携して、児童を中心に据えた指導や特別支援教育に取り組んでいきたい。	B
安全管理	①避難訓練を実施し、いざという時に素早く避難できるように指導する。 ②児童の安全を守るよう職員研修を実施する。 ③施設点検、安全点検を実施し、不備な点があったときには迅速な対応に努める。	避難訓練、職員安全研修、施設点検、安全点検を確実に実施した。安全に不備があった時には迅速に対応した。	A
信頼される学校づくり	①学校広報(紙媒体、WEB、学校教育説明会やまち懇など)を充実させる。 ②児童の健全育成について、PTA、地域との協力体制を維持、発展させる。 ③コンプライアンスを徹底し、市民から信頼される学校づくりに努める。	学校webページの充実、QRコードを使つてのアンケート実施など、学校の取組を現代の生活様式に合わせて情報を発信・収集するよう改善を図った。PTAとも施設面、内容面など協力を図り、子どもたちの安心・安全について取り組んだ。不祥事防止研修を実施し信頼される学校づくりに努めた。	B
いじめへの対応	①定期的なアンケートや保護者面談等で児童の状況を把握し、早期発見に努める。 ②いじめ防止対策委員会を定期的に開きいじめに組織的に対応し心に寄り添った解決に努める。 ③児童支援専任を中心に、常に情報共有を図り、早期発見、早期対応に努める。	児童へは保護者面談前にいじめアンケートを実施し、情報共有を図るよう努めた。また、いじめ防止対策委員会を昨年度より多く開催し積極的に認知に努め、保護者とともに継続的に取り組んだ。児童支援専任を中心に関係機関と連携を図り、解決や未然防止に取り組んだ。	A
人材育成・組織運営(働き方改革)	①キャリアステージに応じた目標を設定し、人材育成を行う。 ②校務のICT化、マニュアル化、情報共有化を促進し、働き方改革を推進する。 ③学年研、メンターチームによる切磋琢磨や先輩教師の活用(OJT)によって、人材育成を行う。 ④校内組織を改善し効率的な学校運営を行う。	横浜市の人材育成研修とともに本校の研修を充実させるよう組織編制、内容の充実を図った。校務のICT化、マニュアル化、情報共有化についても一定の成果があった。基準時間以上の勤務が余儀なくされており、働き方改革をすすめ、職員を健康を守り豊かな人生をつくれる環境を整えていく必要を感じている。	B
ブロック内評価後の気付き	ブロック内の児童生徒が主体的に学ぶように進めていくことはとても大切であり、このような評価によって客観的に確認できることは励みにもなり反省にもなる。それとともに豊かな心の育成や健やかな体の育成にもブロック内で連携を図って協力していく必要を感じた。評価項目の抽出をどうしていくか、評価の妥当性をどう高めていくかは今後検討していく必要があるだろう。		
学校関係者評価	主体的に学ぶ児童の育成に取り組む、一定の成果が上がっているのは素晴らしい。家庭・地域への情報発信を充実させ、育てたい姿に向けて協力をいただきながらすすめていけば、更に成果が上がるだろう。		
中期取組目標振り返り	<ul style="list-style-type: none"> 児童、保護者、地域さらには中学校ブロックの小中学校とともに、主体的に学ぶ児童を育成していくことは今後とても大切である。 アンケート回答者によってとらえが異なる項目については、なんらかの改善をしていく必要がある。 中期学校経営方針を確実に実行できるように、どのように周知連携していくかなどを見直しして成果を確実に上げられるよう努力していきたい。 		